

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果

全国学力・学習状況調査の目的

児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善に役立て、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的に、文部科学省が実施しています。
※この調査結果は、子どもたちが身に付けるべき学力の特定の一部であり、学力や学習状況、学校の教育状況などのすべてを表すものではありません。

教科に関する調査

☆成果

国語では、「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」力や「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える」力において、全国平均を上回りました。

算数では、日常の事象について、統計的に問題を解決する問題において、全国平均を上回りました。特に「目的に応じて、表やグラフからデータの特徴や傾向を捉え、考察する力」が向上してきています。

理科では、花のつくりや受粉についての知識・理解を問う問題、観察、実験結果から見いだした問いを表現する問題において、全国平均を上回りました。

☆課題

国語では、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、説明する問題において、課題が見られました。

算数では、分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が共通する単位分数のいくつ分かを、数や言葉を用いて記述する問題において課題が見られました。

理科では、身の周りの金属の性質について知識を問う問題や、水に関する知識を概念的に理解しているかどうかを問う問題において課題が見られました。

☆今後の授業改善に向けて

国語では、話合いの内容を記録する際、質問内容を四角で囲んだり、関連した情報を線で結んだりすることで、情報と情報との関係付けの仕方や、語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができるよう指導していきます。

算数では、計算の過程を大切にし、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目させたり、思考の過程を文で表したり友達に伝えたりといった活動を充実させていきます。

理科では、自然の事象や現象と知識を関係付けたり、知識を相互に関連付けたりして、理解を深めることができるよう働きかけをしていきます。